

① 板倉中翁之碑



この記念碑は、昭和 16 年大東亜戦争のため延期され、井桁三郎ら幹事団によって昭和 59 年 5 月 2 日に建てられたものである。最大幅 143cm 最大高さ 353cm 厚み 20.4cm

(碑文)

正二位勲一等子爵石井菊次郎題額 勲二等法学博士鶴沢総明撰 板倉花巻謹書 石工深山才司刻
翁名ハ板倉氏安政三年九月二十八日上総関村ニ生ル父ハ周二母ハ河野氏其先ハ里見家ノ臣板倉備中守
大炊之助ニ出ツ後板倉実仲ト云フ者アリ物徂徠ノ門ニ入リテ高弟ト為ル六世ノ孫順徳亦漢籍ニ精シニ子
有リ長ハ敬三郎気節アリ次ハ即チ周二ニシテ夙ニ学ニ志ス俱ニ江戸ニ出テ長ハ四方ノ志士ト交遊シ日々
国事ニ奔走シ次ハ業成リ帷を垂シテ学芸ヲ教授ス文久二年ニ至リテ郷ニ歸養ス此時翁亦父ニ從ヒ心ヲ家
業ニ専ニス大志アリ弱冠笈ヲ東都ニ負ヒ法学ヲ研鑽ス業成ルヤ代言人試験ニ及第シ千葉ニ弁護士事務所ヲ
開業ス既ニシテ自由党ニ入リ又東海新聞ヲ創刊シテ政界ノ木鐸ト為ル明治十九年三月第一回千葉県會議
員ニ選ハレ次テ議長ニ挙ケラル翁道路交通ノ急務ヲ感シ房総鉄道ノ敷設ヲ首唱シ産業ノ開發ニ資センコ
トヲ凶ル二十三年七月帝國議會初期ノ衆議院議員トシテ千葉県第五区ヨリ選出セラル議員トシテ常ニ超
邁識見ヲ有シ電力國營ヲ論シテハ國運ノ進展ヲ企テ文字改良ヲ唱ヘテハ教育ノ振興ヲ謀ル論鋒犀利概
ネ人ノ意表ニ出ツ三十二年伊藤博文ノ政友会ヲ組織スルヤ翁ハ率先之ニ入党ス爾來議院トシテ當選ヲ重
ネ本県政界ノ雄タリ翁ノ大陸經營策及韓国併合論ハ実ニ日露戦争前ニ繫リ天下ノ耳目を聳動シタルコ
ト尠カラス戦後ニ至リテハ親シク戦線ヲ視察シ滿蒙經營ニ就キ策スル所アリ又時ノ石本陸軍次官ト将来
ニ於ケル飛行機戰ノ実現ヲ論シ航空機ノ発達ヲ促ス所アリシト謂フ大正三年大隈内閣ノ師團増設案ニ贊
シ東亜勃興ノ機運ヲ達觀シ東洋ノ和平並ニ対支政策ヲ論シテ政友会を脱退ス越エテ五年政界ヲ離レ専ラ
法律及ヒ文雅ノ問題ニ穩ル年寿華甲ニ至ル迄政治ニ努力セルコト実ニ三十有余年ニ及ベリ翁資性剛毅穎
敏幼ヨリ学ヲ好ミ年甫テ六歳祖父徳順ニ句讀ヲ受ク次テノ崎良柄安原章ニ漢学ヲ村田良造ニ算学ヲ修ム
十三歳始メテ太平記ヲ讀ミ慨然トシテ勤王ニ志シ講学益々勤ム十六歳父ト俱ニ大綱ニ赴ク幾モ無ク宮谷
県庁ニ出仕ス藤井権大書記官其ノ文藻ヲ愛シ誨導ヲ惜マス嘗テ詩題ヲ授ケラレテ之ヲ賦ス結句ニ春峰ノ
語アリ翰長之ヲ採リテ雅号ヲラシメ爾來翁ハ春峰ヲ以テ芸苑ニ知ラル千葉県庁ノ開カルヤ翁モ亦千葉
ニ移リ教ヲ時ノ硯学ニ聽ク翁ノ東都ニ出ツルヤ明法学舎ニ於テ欧米ノ法理ヲ学フ是ヲ以テ議政壇上政論
克ク時勢ヲ察シ斬新能クノ見能ク衆ヲシテ服セシム蓋シ翁力天稟ノ資質ノ然ラシムル所ナリト雖モ家学ニ始
マリ居常刻苦切瑳倦マサルノ効ニ由ラスンハアラス翁ノ国家ニ獻替スル所多キハ世ノ汎ク識認スル所大
ニ後進ヲ奮起セシムルモノアリ殊ニ政界退穩ノ後時々諸生ヲ集メテ教導扶掖セル翁ノ徳風ハ春風駘蕩ノ
慨アリト謂フベシ昭和九年春峰詩稿成ル翌十年茂原町に移ル昭和十三年二月憲法発布五十周年ヲ迎ヘ翌
三月五日病没ス享年八十有三著ス所経世危言東亜勃興ノ好機文字改良論生活改良論保険國營論米穀國
策等アリ配松本氏貞淑ニシテ婦徳有リ内助ノ項頗ル多シ一子順氏有リ頃者同志胥謀リ石ニ刻シテ事績ヲ
後世ニ伝ヘントシ来リテ予ニ文ヲ請フ予嘗テ共ニ政友会ニ在リ乃チ識ル所ヲ略叙スル所以ナリ

昭和十六年三月

立憲政友会長生支会建之
支部長 木嶋義夫